

(財)全日本交通安全協会推薦

事故多発 追突事故

— わかっているながら なぜ？ —

価格 16ミリ 150,000円
ビデオ 50,000円
(税別)

認知



判断
予測



操作



カラー16分

事故多発 追突事故

－わかっていながら なぜ？－

認知（見る）、判断・予測（考える）、操作（操作する）を絶え間なく繰り返す車の運転。

わずかなミスが交通事故という惨事を招く。危険をわかっていながら、なぜ人はミスを犯すのか？
どうすれば、事故を未然に防ぐことが出来るのか？

本作品は、多発する追突事故にスポットを当て、それぞれの事故原因を分析。一瞬の油断が、重大事故につながることを強く訴えます。

構成ポイント

●追突事故はなぜ多いのか？ 一般ドライバーの語るヒヤリ・ハット体験は、誰しも思い当たることがあるはずです。疲れ、気の緩み、思い込みなど、追突事故は、他人事ではないとの認識をもてます。

●追突事故はなぜ起こるのか？ 事故例によるドライバーのエラーを見てみると、そのトップに来るのが認知エラー。安全運転の入り口、認知エラー（危険要因を見ていない）が生じると、人は危険を察知することが出来ません。日常、無意識のうちにやっている、携帯電話やカーナビの操作等をしながらの「ながら運転」は、まさに危険と直結しているのです。また、危険はないだろうと思い込む「だろう運転」の危険性や、交差点、高速道路の追突事故をCGで再現することにより、追突事故は人が注意さえ怠っていなければ、避けることが可能であると再確認できます。

●大型車と普通車の事故例を取り上げます。その衝撃力の大きさ、事故の悲惨さを、大相撲の力士と一般の人との対比で解説し、大型車のドライバーは、昔から「気はやさしくて力持ち」といわれている力士のように、人に、車に、やさしい運転を心がけるよう訴えています。



・「ながら」運転による追突事故

運転中のわき見、携帯、カーナビの危険性
タバコに火をつけながらの追突事故例
居眠り運転による追突事故例

・交差点内の追突事故

・高速道路上の追突事故

4重玉突き追突事故例

・「だろう」運転による追突事故

思い込みによる追突事故例

・追突事故による衝撃力

■協力 トヨタ自動車(株)／(財)日本相撲協会／武蔵川部屋